

これはアストラゼネカ英国本社が2003年7月24日に発信したプレスリリースの日本語訳です。
日本で未発売の製品については英語表記のままとする。

AstraZeneca PLC 2003年第2四半期・上半期業績

“ 上半期の業績は予想以上。中間配当は10%増。

1株当り利益通年目標を上方修正 “

ファイナンシャルハイライト

グループ	第2四半期	第2四半期	実質 %	恒常 為替 %	上半期	上半期	実質 %	恒常 為替 %
	2003 \$m	2002 \$m			2003 \$m	2002 \$m		
売上高	4,436	4,312	+3	-4	9,171	8,658	+6	-
営業利益	889	1,064	-16	-18	2,161	2,361	-8	-10
税引前利益	921	1,065	-14	-17	2,214	2,383	-7	-9
1株当り利益	\$ 0.39	\$ 0.45	-13	-16	\$ 0.93	\$ 1.00	-6	-8

伸び率は恒常為替レート (CER)

- 上半期の売上高はPrilosec™(日本での製品名:オメプラール)、ゼストリル、ノルバデックスの米国における12億ドルの売上減にもかかわらず恒常為替ベースでは去年同期と比較し増減はありませんでした。
- 上半期の営業利益は10%減少しました。これは、当期のその他営業利益(6,200万ドル)が売却益を計上した前年同期(2億1,100万ドル)と比べて低かったことが主な原因です。
- 主要成長製品ならびに発売製品の上半期の売上高は48%増の37億ドルでした。
- 第2四半期の売上高は、予想された米国市場での卸の在庫調整の結果、4%減少しました。米国以外での売上高は4%増でした。
- 第2四半期の営業利益は、予想された在庫調整および研究開発費ならびに販売費・一般管理費の微増(恒常為替ベースで3%増)により、18%減少しました。
- Nexium™の上半期の売上高は76%増の14億6,600万ドルでした。過去12カ月間の売上高は26億ドルを超えました。
- すでに発売された市場で引き続き好調なCrestor™の売上高は1,200万ドルでした。7月9日には米国FDAの諮問委員会が満場一致でCrestor™の承認を勧告しました。
- イレッサの上半期の売上高は、5月中旬に発売された米国での1,800万ドルを含む6,600万ドルでした。
- 取締役会は中間配当を0.255ドルに引き上げることを勧告しました。

最高経営責任者トム・マキロップ卿は次のように述べました:後発品により米国での12億ドルの売上減(Prilosec™、ゼストリル、ノルバデックス)を新製品ならびに高成長製品で補ったことは製品ポートフォリオ(製品構成)の転換に成功表しています。この結果、上半期の売上高は横ばいでした。この好調な売上推移と下半期の見通しにより、当社は、通年の利益目標を1株当り1.65ドルから1.75ドルの範囲に上方修正しまし

た。また、中間配当も10%増の0.255ドルに引き上げました。

2003年7月24日 ロンドン発

Media Enquiries:	Steve Brown/Emily Denney (London)	(020) 7304 5033/5034
	Staffan Ternby (Södertälje)	(8) 553 26107
	Rachel Bloom (Wilmington)	(302) 886 7858
Analyst/Investor Enquiries:	Mina Blair-Robinson (London)	(020) 7304 5084
	Jonathan Hunt (London)	(020) 7304 5087
	Staffan Ternby (Södertälje)	(8) 553 26107
	Ed Seage/Jörgen Winroth (USA)	(302) 886 4065/(212) 581 8720

ビジネスハイライト 伸び率は恒常為替レート(CER)

上半期

上半期の売上高は恒常為替ベースで前年同期に比べ増減はありませんでした。米ドル安により実質売上成長率は6%上昇しました。営業利益は、売却益を計上した昨年より大幅に低いその他営業利益が主な原因で、10%減少しました。コストはよく管理され、販売費・一般管理費および研究開発費は恒常為替ベースで4%増でした。営業利益に対する為替変動によるプラス影響は2パーセントポイントでした。1株当たり利益は8%減の0.93ドルでした。通年目標の上方修正とポートフォリオ(製品構成)転換の進捗状況を受けて、取締役会は0.255ドル(15.9ペンス、2.07スウェーデンクローネ)に増額した中間配当を10月6日に支払うことを勧告しました。

上半期の米国以外の市場での売上高は5%増、米国市場での売上高は4%減でした。ポートフォリオ(製品構成)の転換は良好に進捗しています。新発売ならびに成長製品10品目の全世界の売上高は48%増の37億ドルに達し、いまや売上高の40%を構成しています。この力強い成長が米国での12億ドルの売上減(PriLOSEC™、ゼストリル、ノルバデックス)を相殺しました。その結果、2002年との比較で、上半期の売上高は横ばいでした。

Nexium™の上半期の売上高は米国で74%増、“その他の地域”で83%増と好調で、76%増加しました。第2四半期中、米国PPI市場の新規処方におけるNexium™のシェアはPriLOSEC™とオメプラゾールの後発品の処方の合計を超えました。Nexium™はいまや米国PPI市場全体の新規処方シェアランキングの第2位となり、消化器専門医による新規処方に関しては第1位となりました。

Symbicort™の売上高は、急成長している喘息治療配合剤市場のシェアの伸長により、上半期2億4,900万ドル(79%増)でした。

イレッサの上半期の売上は、5月中旬に上市した米国での1,800万ドルの売上を含む6,600万ドルに達しました。米国では上半期、調剤薬局にて約5,000枚処方されました。倫理供給プログラムに参加している患者さんを含めて、米国では10,000人にのぼる患者さんが現在イレッサを服用していると推測されます。

Crestor™は既発売市場において引き続き好調です。上半期の売上高は1,200万ドルでした。ダイナミックなスタチン製剤市場のCrestor™のシェア(新規および他剤に切り替えた患者。既存の治療を継続している患者を除く)は、カナダ市場(民間の支払いのみ)およびオランダで約30%でした。7月9日に米国FDAの内分泌・代謝諮問委員会が全会一致で、Crestor™の承認を勧告しました。

第2四半期

第2四半期の売上高は恒常為替ベースで4%減少しましたが、米ドル安により報告ベースの実質売上成長率は3%でした。売上減に対しコストが上昇したため営業利益は18%減少しました。研究開発費、販売費・一般管理費は引き続き厳しく管理され、恒常為替ベースで、3%の増加にとどまりました。営業利益に対する為替変動の影響はプラス2%でした。第2四半期の1株当たり利益は16%低い0.36ドルでした。

Nexium™、Symbicort™および抗がん剤の売上伸長がLOSEC™、ゼストリルの売上減を上回ったため、米国以外での第2四半期の売上高は4%伸びました。

卸の在庫調整の影響ならびにPriLOSEC™(52%減)、ノルバデックス(94%減)、ゼストリル(86%減)の売上が後発品の影響で減少したため、米国の売上高は11%減少しました。これら3製品を除く米国の売上高は23%増加しました(ただし、卸在庫調整の影響を補正した後の潜在需要ベースでは、35%増と推定されます)。

予想通り、卸在庫は第1四半期のレベルよりも低下しました。第2四半期末の推定在庫レベルはNexium™とセロクエルでは通常レベルまたはそれより低いレベル、Atacand™では減少傾向にあります。第2四半期、Toprol-XL™に関しては潜在需要を上回る卸による購買が続きました。当社の製品全体では流通在庫は通常レベルを2億ドル上回るレベル(第1四半期末のレベルの半分)まで減少し、その在庫の大部分はToprol-XL™です。

今後の見通し 伸び率は恒常為替レート(CER)

今日までの好調な業績と下半期の見通しに基づき、現在の為替レートが下半期も変わらないとの前提で、当社は、通年の1株当たり利益を1.65ドルから1.75ドルの範囲へと引き上げました。

注意: 当社の利益やビジネスの見通しに対する上記の予測的な記述はリスクや不確実要素をともなっており、実際の結果はこれらと大きく異なる可能性があります。たとえば、米国におけるオメプラゾールの後発品の売上伸び率、新製品の承認取得ならびに上市の成否(とくにCrestor™、イレツサ、Exanta™)を含む既存製品の継続的成長、コストや経費の増加、利息率の動き、為替レートの変動、税率の更なる改善などがリスクや不確実要素です。これらやその他のリスクや不確実要素については、2002年アニュアルレポートForm20-Fを含む証券取引委員会への有価証券報告書をご覧ください。

売上高

伸び率は恒常為替レート (CER)

消化器

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2003	2002		2003	2002	
Losec™/Prilosec™ (オメプラール)	742	1,116	-39	1,434	2,308	-42
Nexium™	631	464	+31	1,466	811	+76
Total	1,390	1,597	-18	2,935	3,149	-11

- Nexium™の第2四半期の売上高は、米国以外の市場で50%増加しました。米国での処方総数は第2四半期に50%伸びましたが、卸在庫調整の結果、売上の伸びは25%でした。当社は、第2四半期末時点でNexium™の米国の卸在庫は通常レベルあるいはややそれより低いレベルにあると考えています。
- Nexium™の上半期の売上は、米国で74%伸び、その他の国々で83%伸びました。Nexium™の全世界の売上は過去12ヶ月で26億ドルを超えました。
- Nexium™は米国で、消化器専門医による新規処方のシェアにおけるマーケットリーダーとなり、その地位を基に引き続き成長しています。また、市場全体では、Nexium™の処方は今やPrilosec™とオメプラゾール合計の処方を上回り、米国市場の第2位のPPIとなりました。
- Prilosec™の米国での売上高は第2四半期に52%、上半期に56%減少しました。米国での処方総数は6月までに(上半期)、65%減少しました。米国のオメプラゾールの処方総数におけるPrilosec™のシェアは6月に35%でした。
- Losec™の米国以外の市場での売上高は第2四半期に18%、上半期に20%減少しました。日本の売上は依然として堅調に伸長しており、上半期には48%増を達成しました。

循環器

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2003	2002		2003	2002	
Seloken™ / Toprol-XL™ (セロケン)	380	206	+79	748	437	+67
Atacand™	152	129	+6	358	278	+20
Plendil™	129	97	+26	239	203	+12
(スプレンジール)	118	269	-61	226	546	-63
Zestril™ (ゼストリル)						
Crestor™	9	-	n/m	12	-	n/m
Total	967	889	+1	1,936	1,835	-

- Toprol-XL™は米国で引き続き好調な伸びを示しました。ベータ遮断薬の処方総数のマーケットシェアは6月に25.1%に達し、処方数は上半期では29%増加しました。第2四半期の米国での売上(112%増)は潜在需要を超えました。その結果、流通在庫は第2四半期末の通常レベルよりも高い1億5,000万ドルとなりました。
- Seloken™/Toprol-XL™の米国以外の売上は第2四半期に13%、上半期に12%増加しました。
- Atacand™製品群の米国での処方総数は上半期で14%伸び、売上高は20%伸びました。米国の第2四半期の売上高は19%減少となりました。それは卸在庫が、減少傾向にあるものの、第2四半期末に通常レベルよりも高かったためです。
- 米国以外のAtacand™の売上高は第2四半期に17%、上半期には19%伸長しました。

- Crestor™の上半期の売上高は1,200万ドルで、うち900万ドルは第2四半期の売上でした。既発売国のうち市場規模が上位3位までのカナダ、オランダ、英国においてCrestor™は引き続き当社の予想通りの業績をあげています。スタチン製剤市場のダイナミックなセグメント(既存の治療を継続している患者を除く)の分析により、当社はカナダ市場(民間支払いのみ)では約30%のシェアを発売後21週間で獲得したとともに、オランダにおいても19週後に同様のシェアを獲得したと推測しています。
- Crestor™は第2四半期にスウェーデンおよびその他4カ国で発売されました。当社は米国を含む6カ国での発売を2003年末までに予定しています。日本での承認は2004年上半期を予定しています。
- 7月9日に米国FDAの内分泌・代謝諮問委員会が、さまざまな脂質代謝異常の食事療法の補助療法としてCrestor™の承認を全会一致で勧告しました。

呼吸器

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2003	2002		2003	2002	
Symbicort™	127	68	+61	249	122	+79
Pulmicort™ (パルミコート)	239	199	+13	490	426	+9
Rhinocort™	96	81	+17	186	144	+26
Accolate™(アコレート)	25	33	-27	56	65	-16
Oxis™	29	30	-16	60	61	-13
Total	552	448	+13	1,115	890	+16

- Symbicort™の第2四半期の売上は61%、上半期は79%伸長しました。配合剤市場は引き続き力強く成長し、Symbicort™もマーケットシェアを伸ばしており、欧州全体のマーケットシェアは25%を超えました。最新の月次データによると、Symbicort™は配合剤市場のシェアにおいてスウェーデンでは50%を超え、ドイツでは33%、フランスでは30%を獲得しました。米国でのSymbicort™の承認申請は2005年を予定しています。
- パルミコートの米国での売上高は、主にPulmicort™ Respules™処方の好調な伸び(上半期34%増)とPulmicort™ Respules™およびパルミコートタービュヘイラー両方の卸在庫が原因で、第2四半期に51%、上半期に37%伸長しました。
- Rhinocort™の売上高は米国市場での成長(上半期39%増)を反映しています。米国では、Rhinocort™ Aquaの売上増がRhinocort™ Nasal Inhalerの販売中止(フロンを含む製品の段階的販売中止)による売上減を上回りました。Rhinocort™ Aquaの上半期のマーケットシェア、処方総数ならびに卸在庫は増加しました。

オンコロジー

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2003	2002		2003	2002	
Casodex™(カソデックス)	228	148	+41	417	271	+43
Zoladex™(ゾラデックス)	213	195	-	406	382	-1
Arimidex™(アリミデックス)	143	79	+70	236	144	+54
Iressa™(イレッサ)	47	-	n/m	66	-	n/m
Faslodex™	15	8	+88	37	8	n/m
Nolvadex™(ノルバデックス)	39	117	-70	100	257	-63
Total	690	553	+15	1,271	1,073	+10

- カソデックスの売上高は米国以外の市場で第2四半期に19%、上半期に22%伸びました。米国における第2四半期の売上は118%増でしたが、これは、第2四半期の卸在庫、および前年同四半期の在庫調整に影響を受けています。
- アリミデックスの売上高は米国以外の市場で第2四半期に50%、上半期に46%伸びました。早期乳がんの術後補助

療法の適応は現在25カ国で承認されています。アロマターゼ阻害薬の世界市場におけるアリミデックスのシェアは、2001年12月に早期乳がんにおける同剤の使用を支持する臨床データが発表されて以来15パーセントポイント拡大しました。

- アリミデックスの米国での処方総数は上半期54%増加しました。また、上半期66%増、および第2四半期は94%増の売上は、同四半期に卸在庫の積み増しがあったことを示しています。
- 米国と欧州で行われる臨床試験で、早期の乳がん患者ならびに乳がん発症のハイリスクをもつ女性を対象にしたアリミデックスの有効性、安全性が評価するものであると5月に発表しました。
- イレッサの売上高は上半期、5月中旬の発売後の米国での1,800万ドルの売上を含む6,600万ドルに達しました。米国では上半期、調剤薬局にてイレッサは約5,000枚処方されました。第2四半期の日本の売上高は第1四半期に比べ通常の傾向に近いレベルに戻りました。
- Faslodex™の売上高は、上半期に3,700万ドルまで上昇し、同剤が進行乳がんのマネジメントにおける治療選択肢のひとつとして歓迎されていることを示しています。
- ノルバデックスの全世界の売上減は2月末以降米国における複数のタモキシフェン後発品の参入を反映しています。

中枢神経

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2003	2002		2003	2002	
Seroquel™ (セロクエル)	270	263	-1	714	592	+18
Zomig™ (ゾーミグ)	54	74	-35	162	166	-8
Total	331	345	-9	891	773	+11

- 米国でのセロクエルの処方総数は力強く伸長し、上半期35%増でした。6月のマーケットシェアは2パーセントポイント増の19.6%でした。セロクエルは、非定型抗精神薬クラスの上位3製品中、今年マーケットシェアを伸ばした唯一の製品です。
- 処方傾向とは逆に、セロクエルの売上高は、卸の在庫傾向により影響を受けました。第1四半期に通常レベルよりも高いレベルにあった卸在庫が第2四半期にも低下しなかったため、第2四半期の売上高は11%減となりました。上半期の売上高は、第2四半期末の卸在庫が通常レベルに戻ったため、10%増加しました。
- 米国以外のセロクエルの売上高は第2四半期に38%、上半期に56%伸長しました。
- 米国以外のゾーミグの売上高は第2四半期も上半期も6%伸長しました。米国では、第2四半期の売上高は、4月の価格変更を受けた卸の在庫調整の結果、76%減少しました。

疼痛、感染症、その他

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2003	2002		2003	2002	
Merrem™	80	74	+5	154	141	+8
Diprivan™ (ディプリバン)	98	111	-17	234	222	-
Xylocaine™ (キシロカイン)	50	45	+9	88	85	+2
Marcaine™ (マーカイン)	23	18	+22	42	35	+14
Total	369	357	-2	746	699	+2

- Merrem™の上半期の8%の売上増は米国以外の市場の売上増(16%)が供給抑制による米国の売上減(22%)を上回ったため達成されました。

- ディプリバンの上半期の売上高は、米国で第1四半期に在庫積み増しが行われ、また第2四半期に在庫調整が行われたため、横ばいでした。

地域別売上高

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2003	2002		2003	2002	
米国	1,962	2,214	-11	4,432	4,597	-4
欧州	1,646	1,401	-2	3,201	2,788	-1
日本	293	240	+11	536	412	+20
その他の地域	535	457	+17	1,002	861	+18

- 米国の第2四半期の売上高は11%減少しましたが、第1四半期末の時点で通常レベルより高かった卸在庫調整により、予想通り影響を受けました。Prilosec™(オメプラール)、ゼストリル、ノルバデックスは後発品の競合により、上半期のこれら3製品の売上高は合計12億ドル減少しました。しかし、米国の総売上高は4%の減少にとどまりました。
- 欧州の売上高は第2四半期に2%、上半期に1%減少しました。フランスとスペインの売上増は、英国の売上減とイタリア、ドイツにおける価格の低下により相殺されました。Nexium™、Symbicort、セロクエルおよびカソデックスについて顕著な売上増が達成されました。
- 上半期の日本における売上増(20%)はイレッサ、セロクエル、オメプラールおよびカソデックスによって推進されました。

営業レビュー

上半期

報告ベースで売上高は6%増(恒常為替ベースでは変化なし)、営業利益は8%減(恒常為替ベースで10%減)でした。米ドル安により売上成長率は6パーセントポイントのプラス影響を受けましたが、コストも上昇したため、利益へのプラス影響は2パーセントポイントにとどまりました。売上総利益率は、メルク社への支払い比率の低下などの好影響を受け0.5パーセントポイント上昇しました。営業利益率は3.7%減の23.6%でした。研究開発費、販売費・一般管理費は引き続き厳しく管理され、恒常為替ベースで4%増にとどまりました。その他営業利益は、前年(売却益を含む)と比較して大幅に減少し、利益率低下の1.6パーセントポイントを占めています。

第2四半期

報告ベースで売上高は3%増、営業利益は16%減でした。恒常為替ベースでは、売上高は4%減、営業利益は18%減でした。営業利益率は、売上が下降する一方コストが増大した結果、4.7パーセントポイント低下し20%でした。為替も利益率を抑制しました。第2四半期の研究開発費、販売費・一般管理費は良好に管理され、恒常為替ベースでの伸びはわずか3%でした。また、第2四半期には、Marlow Foodsの売却が完了し、その他利益に小額の利益が計上されました。

比較的高いユーロが売上に与える好影響が、ポンド高ならびにスウェーデンクローネ高がコストに与えるマイナス影響を上回り、通年ベースで為替変動が1株当たり利益にわずかなプラス効果をもたらすと予想されます。

卸在庫

第1四半期の売上高は、価格の引き上げを見込んで、卸が購買したため、増加しました。第1四半期末の時点で、卸在庫は通常レベルより約4億ドル高かったと推測されました。予想通り、第2四半期は在庫レベルが低下し、また6月末の時点で卸在庫は低下し、通常レベルより約2億ドル高かったと推測されました。この在庫の大きな部分はToprol-XL™と通常あるいは通常以下のレベルまで戻ったNexium™、セロクエルを含む影響を受けたその他主要製品でした。

利息と配当収入

全体的に高いキャッシュバランスが投資に対する低い利回りを補うとともに、前年同期(特に第2四半期)と比較して為替差損が減少したため、2003年上半期の正味受取利息と配当収入は5,300万ドル、第2四半期は3,200万ドルでした。

税金

実効税率は、第2四半期、上半期ともに27.5%、前年同期は27.0%でした。

キャッシュフロー

例外項目調整前の営業活動によるキャッシュフローは本年上半期には前年同期の31億4,900万ドルから24億7,300万ドルに減少しました。この減少は営業利益の減少、在庫増および債務の決済時期等によるものです。例外項目の現金支出は2002年で5,500万ドル、本年上半期は第2四半期のゾラデックスの和解金等の支払いを含む3億8,100万ドルでした。上半期の納税額は7億6,200万ドルで、米国の納税時期が昨年よりも早かったため、2002年同期より3億4,700万ドル増えました。正味設備投資額は、前年同期と比べて大きな変化はなく上半期で総額6億3,700万ドルでした。買収・売却に関する8,000万ドルのキャッシュフローは第2四半期のMarlow Foodsの売却によるものです。株の買い戻し費用は3億1,100万ドルで、第2四半期には3億1,900万ドルの負債を返済しました。正味キャッシュファンドは上半期2億3,500万ドル減少し、2003年6月30日現在で36億900万ドルでした。

配当

2003年8月22日現在の登録株主全員に対して第1回中間配当0.255ドル(15.9ペンス、2.07スウェーデンクローネ)が2003年10月6日に支払われます。

株の買い戻しプログラム

第2四半期中に総額1億8,200万ドルで普通株式460万株が買い戻され消却されました。その結果、本年上半期の買い戻しは総額3億1,100万ドルで860万株となりました。本プログラムがスタートしてから、買い戻し消却された株の総数は7,420万株、買い入れ総額は31億1,600万ドルとなりました。2003年6月30日現在、発行株式数は17億1,000万株です。先に発表された本年度の株の買い戻しプログラムに基づき、買い戻し資金は約9億ドル残っています。

今後のマイルストーンおよび主なイベント

10月2日 アニュアル・ビジネス・レビュー(米国ウィルミントン)

10月23日 第3四半期業績発表

トム・マキロップ卿

最高経営責任者